Vol.64-No.02　　2012年6月

阿佐ヶ谷教会

信友会 会報

5月例会（5月27日開催）報告

「使徒言行録の学び」（第2回）　大村　栄 牧師

―新約聖書　使徒言行録　第2章、3章―

右写真は中央：荻原会長、右：日高副会長、左：寺嶋副会長

2012年度2回目となる5月の信友会例会は聖霊降臨日（ペンテコステ）礼拝の午後、教会ホールにて開催されました。第1回に引き続き「使徒言行録」第2章から大村栄先生に講演していただきました。「使徒言行録」が聖霊行伝と言われているように、聖霊降臨日に行う例会にふさわしい内容の集いでありました。

「聖霊行伝をたどる－使徒言行録の学び ②」　大村　栄 牧師

信友会では、4月から使徒言行録を学ぶことになり、4月に第1章のイエスの復活後の40日を学びました。「イスラエルのために国を建て直してくださるのはこの時ですか」と尋ねる弟子たちに、イエスは聖霊を受けて力を得て地の果てまでわたしの証人となりなさいと語られたところです。本日はペンテコステ（聖霊降臨日）で、朝の礼拝では聖霊を受けた弟子たちにが、霊が語らせるままに他の国々の言葉で話しだし、五旬祭のためエルサレムに集まってきた他国からの人々を驚かせたこと。この日が教会の始まりであることを学びました。

信友会の話題は、第2章の前半のペンテコステの物語に続く、14節のペトロの説教から始めます。

人々は、弟子たちが自分の国の言葉で神の偉大な業を話すのを聞いて大変驚いていたが、中には弟子たちが酒に酔っているのではとあざける人たちがいたので、ペトロが立ち上がります。そして我々は決して酒に酔っているのでなく、聖霊に満たされ、ヨエルを通して語られた預言を語っているのですと話します。そして、ヨエル書3章1～5節を引用します。　（次ページへ）

◎ 2011年度データから見る信友会（その2）

信友会員の平均年齢
67.5歳

教会員全体の平均年齢
63.1歳

世代構成

人数・年齢は2011年末現在

ある日の礼拝出席者割合

90代	7名中	0名
80	24 〃	10
70	40 〃	17
60	33 〃	14
50	38 〃	9
40	14 〃	5

12月4日（2011年度の平均出席者数に近い日）の場合

（前ページより）

ヨエルの預言

ヨエル書は、紀元前４５０年から３５０年の間と少し幅がある期間に書かれましたが、この書はバビロン捕囚を終えたイスラエルにとってはまだ混乱の中にある時代でした。第１章では、たびたびアラビヤから吹く熱風（シロッコ）に乗ってイナゴの大群が飛来して農産物はおろか全ての植物を食い尽くし、民をどん底に落とすことの予感が語られます。第２章は、「主の怒りの日」という小見出しです。全能者による破滅の日であり、他国による強烈な侵略が起こり闇と暗黒の日となります。１１節では、「主はその軍勢の前で声をとどろかされる。その陣営は甚だ大きくみ言葉を実現される方は力強い。主の日は大いなる日で、甚だ恐ろしい。誰がその日に耐ええよう」と言っています。しかし１２節からは、口調が一変して、主の慈しみが語られます。「今こそ心から私に立ち帰れ・・・主は恵に満ち、憐れみ深く、忍耐強く，慈しみに富み、くだした災いを悔いられるかからだ・・・」。あなたがたは神の裁きを受ける前に悔い改めなさい。そうすれば神は悔い改めた者に慈愛を示して下さると書かれています。

ペトロは、この第３章１節～５節の小見出しの「神の霊の降臨」の部分、「私は全ての人にわが霊を注ぐ・・・」以下を引用します。ヨエル書第３章の４節、５節では、「主の日、大いなる恐るべき日が来る前に太陽は闇に、月は血に変わる。しかし、主の御名を呼ぶ者は皆、救われる。主が言われたようにシオンの山、エルサレムには逃れ場があり、主が呼ばれる残りの者はそこにいる」と書かれています。

ペトロの説教では、５節の「しかし、主の御名を呼ぶ者は皆救われる」までに留め、エルサレムの逃れ場の部分を省略しています。ヨエルの預言の「神を呼び求める民」とは、選民であるイスラエルの民であり、この民のみが救われると言っているのです。ヨエル書２章１８節では、「その時、主はご自分の国を強く愛し、その民を深く憐れまれた」、２７節では「イスラエルのうちにわたしがいることをお前たちは知ることになる。わたしはお前たちの主、ほかに神はいない。わたしの民は、とこしえに恥を受けることがない」と強い選民意識が出ています。しかしペトロは、ここではこの「選民・イスラエル」と言う排他的な思想を剥がし取って、神の救いは選民・イスラエルを超えて「全世界の民」に注がれると語っているのです。

ペトロは、ここからナザレ人イエスについての証を始めます。神がイエスを通して行われた奇跡、不思議な業、しるしをあなたがたは知っているのです。神はこのイエスをあらかじめ定められた通りにあなた方に引渡したが、あなたがたは律法を知らないローマ人の手を借りて殺させました。しかし、神は、イエスを死の苦しみから解放して復活させました。イエスが、死に支配されたままでおられることはありえないことであると語ります。

ダビデの預言

そして、ペトロは、イエスについてのダビデによる預言を詩編により語ります。ダビデは、ユダヤ人にとって民衆の星であり絶対的なヒーローであるので、ダビデによる詩編は多くのユダヤ人は諳んじることができます。イエスはダビデの子と書かれますが、ユダヤ人にとってユダヤ人の王は、ダビデの家系を引き継ぐ者であることが、素直に納得できる条件でしたし、多くのメシア預言があります。

ここでは、詩編１６編の８～１１節を引用しています。このダビデによる預言は、敬虔に生きる者の祝福の歌、信仰者の恵の生活を歌ったものと言われていますが、ここでペトロは、イエスの復活を預言する歌として引用しています。その中で、詩編８節では、「わたしは絶えず主に相対しています。主は右におられるので、私は揺ぐことはありません」。１０節では、「あなたはわたしの魂を陰府に渡すことなくあなたの慈しみに生きる者に墓穴を見させず命の道を教えてくださいます」とあります。ペトロは語ります。ダビデは預言者だったので彼から生まれた子孫が王座に着くことを神が誓ってくださったこと、そのキリストの復活について知っていたので、「彼は陰府に捨てておかれず、その体は朽ち果てることがない」とイエスの十字架と復活を預言しているとペトロは語ります。

そしてペトロは、神がイエスを復活させたこと。その証人は私たちであること、イエスは神の右に上げられ、約束された聖霊を御父から受けて注いで下さったと語りました。そして、詩編１１０編１節を引用して、「主はわたしの主にお告げになった。わたしの右の座に着け、わたしがあなたの敵をあなたの足台にするときまで」。この場合の主は「神」で、わたしの主は「メシア即ちキリスト」です。そして、「あなた方が十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、メシアとなさった」と証言したのです。

２７節では、ペトロの説教を聞いた民衆は、大いに心を打たれ、ペトロと使徒たちにどうしたら良いかと尋ねます。ペトロは「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば賜物として聖霊を受けます」と語ります。ペトロの証言を受け入れ洗礼を受けた人は、この日、3000 人になりました。これが教会の最初の奇跡でした。

信者の生活

聖霊を受けた使徒から洗礼を受けた信者たちの生活については、第４２節から記載されています。かれらは、使徒の教え「学習」（１）、相互の「交わり」（２）、パンを裂くこと、「祈ること」（３）に熱心であった。４３節で全ての人にある恐れは、神への畏怖であり「敬虔」（４）です。使徒たちにより不思議な業やしるしが行われるのを見る「奇跡」（５）、信者たちは皆一つになり、全ての物を「共有」（６）して分かち合うこと。これは単なる物質の共有ではなく、心、責任と使命の共有であります。毎日心を一つにして神殿に参り（礼拝）（７）、家ごとに集まって「喜び」（８）と真心を持って一緒に食事をする生活したので、民衆全体から好意を持たれたと書かれています。このような信徒の生活は、民衆から「魅力」（９）的に見られていたのです。初代教会の信者たちは、この九つの要件を共有して豊かな生活を送っています。

私たち信友会もペトロの説教にあるように、全ての人々に救いが与えられる喜びを知り、それを述べ伝え、イエス・キリストを救い主であるという悔い改めの心を持ってぬかずく魅力のある群でありたいと思います。

本日は、初代教会の原点について話しました。　　（文責：玉澤武之　写真：小笠原敦久）

次回例会は**7月22日**です。修養会（7月27,28日）直前となりますが、併せて
ご参加ください。今回に引き続き「使徒言行録の学び（第３回）」を予定しています。